

## Q5

最近の麻疹の流行状況を教えてください。

## A

日本における麻疹の流行状況は感染症発生動向調査によって把握されています。近年では昭和59年(1984)に全国的な流行があり、その後、平成3年(1991)に7年ぶりの流行があり、前回のものより低い発生件数でした。その後は平成8年(1996)に小さな流行がありました。平成12年(2000)から患者報告数は再び増加し、平成13年(2001)は平成12年の約1.5倍であり過去7年間で最多でした。この年は、全国で約28.6万人の患者が発生したと推計された年でした。流行時には1~4歳児の患者が急増します。当時は、1歳児がもっとも多かったのですが、平成15年(2003)、その割合は患者報告の1/4から1/5に減少してきています。世界では毎年約2,000万人が麻疹にかかり、平成17年(2005)は年間34.5万人が麻疹により死亡したと推計されています。平成13年(2001)までは日本では年間10~30万人(推計)が麻疹を発症していましたが、平成15年(2003)は約8万人まで減少し、平成16年(2004)はさらに減少し、平成17年(2005)は、1万人以下に減少していました。人口動態統計によると平成7年(1995)7名、1996年15名、1997年18名、1998年25名、1999年29名、2000年18名、2001年21名、2002年10名、2003年6名が麻疹で死亡しています。麻疹の流行や、死亡者数を減らすためには、ワクチンの接種率を95%以上に維持する必要があるといわれています。1歳になったらすぐの麻疹ワクチン接種が全国的に実施されるようになり、平成16年(2004)の感染症発生動向調査による小児科定点医療機関からの報告は1,547人と減少し、さらに平成17年(2005)は537人、平成18年(2006)は過去20年間でもっとも少なく516人となっていました。しかし、平成18年(2006)4月以降、関東地方(茨城県南部、千葉県)を中心に麻疹の流行が認められました。地域における積極的な対策により、流行は抑制されましたが、関東地方における麻疹は完全な終息とならず、平成18年(2006)末から平成19年(2007)初めにかけて、埼玉県、東京都で麻疹患者数が増加傾向を示しました。その後、千葉県、神奈川県等の関東南部地域に拡大し、5月の連休以降、全国に拡大しました。平成19年(2007)の流行の中心は、10~20代のワクチン未接種かつ麻疹未罹患患者及びワクチン1回接種後のprimary vaccine failure (PVF)及びsecondary vaccine failure (SVF)を中心とした年長児から若年成人中心に変化し、多くの学校(特に高校、大学)が麻疹による休校となりました。その後、患者数は減少傾向にありましたが、麻疹は平成20年(2008)1月1日からこれまでの定点把握疾患から全数把握疾患に変更となり、すべての医師に届け出が義務づけられました。これにより、平成20年(2008)8月20日現在、8月17日までに10,635人の患者発生が認められています。特に神奈川県では3,000人を超える流行となり、北海道、千葉県、東京都でも患者数が多く1,000人を超えており、次いで福岡県で

は500人以上、埼玉県、大阪府、静岡県、愛知県、京都府、秋田県、広島県、岡山県、兵庫県では100人以上となり、患者数0人の都道府県はありませんでした。特に多かったのは、中学生・高校生の年齢層で、10代が約半数、20代が約25%で、次いで0-1歳児も1,000人を超える患者数になりました。予防接種歴を見ると約半数が予防接種歴無し、約25%が1回接種歴有り、残りは接種歴不明でした。2回接種歴有りの者は全体の1%程度と極めて少なく、2回目の接種から発症まで2週間以内の者も多いことから、間に合わずに発症したと考えられました。